

埼玉県山岳連盟 埼玉岳連報 50 号

発行者 石倉 昭一

発行所 連盟事務所 天野 賢一方

〒333-0823 川口市石神 179-40

編集人 岩井田正昭

発行数 1600 部

埼玉岳連

創立 60 周年記念式典開催：平成 27 年 11 月 28 日（土）



平成 27 年新春懇談会
本年もどうぞ宜しくお願いします

巻 頭 言

『創立六十周年の新春を迎えて』

埼玉県山岳連盟 会長 石倉昭一

新年あけましておめでとうございます。

いよいよ埼玉岳連の創立六十周年の年が始まりました。

既に昨年八月から創立六十周年の記念事業についての検討を始め、次の事業を決めました。

一・記念祝賀会と記念講演 十一月二十八日（土）
二・記念誌発行（五十年～六十年の十年間の記録）
三・六十周年を記念しての、埼玉六十山記念登山（クリーン）登山・以上三つを基本事業として行います。

是非多くの会員の皆様に参加していただき、六十周年を皆で祝いたいと思います。

また今年は、八年に一回持ち回りの関東ブロック（一都七県）の幹事県岳連に当たり、埼玉岳連が主管団体として関東ブロック大会（国体予選）を加須で七月二十五日（土）～二十六日（日）に開催することになりました。

毎年行っている事業の他に六十周年記念事業と関東ブロック大会開催が重なりましたので、会員の皆様にはこれまで以上のご支援ご協力をお願いいたします。

そしてこの一年が会員の皆様にとって希望に満ちた明るい年となりますようお祈り申し上げます。

岳連報 50 号 目次

1 p :	巻頭言『創立 60 周年の新春を迎えて』
2 p :	平成 27 年新春懇談会・参与会
3 p :	平成 26 年 11 月理事会・報告
4 p :	同上/ 平成 27 年 1 月理事会・報告
5 p :	同上/ 訃報
6 p :	第 69 回「長崎国体」, 県総体報告
7 p :	第 5 回全国高校選抜 C 大会報告
8 p :	遭難防止講習会、積雪期登山講習会
9 p :	50 号記念特集「岳連報 今昔とこれから」
10 p :	創刊号～10, 20, 30, 40, 50 号 表紙紹介
11 p :	創刊号～50 号 紙面掲載概要
12 p :	『投稿』積雪期登山講習会に参加して
13 p :	県内選手ザルト、専門委員会/計画
14 p :	事業計画・編集後書
15 p-16 p	広 告
	ピラミットジャパン(株)・日本用品(株)・田中産業(株)

村岡 正巳	・副会長	加須 SCC
	兼企画委員長	
加藤 富之	・副会長	
	兼事務局長	深谷山岳会
天野 賢一	・理事長	遠峰山岳会
瀬藤 武	・副理事長	
	兼遭対委員長	浦和溪稜山岳会
宇津木秀二	・副理事長	高体連
土屋 正昭	・競技委員長	加須 CC・ビナ
野村 善弥	・指導委員長	あゆむ山の会
内海 信	・選手強化委員長	高体連
岩崎 繁夫	・自然保護委員	アルパ・インクラブ・とだ
鈴木百合子	・海外登山委員長	無名山塾
岩井田正昭	・広報委員長	川越山の会 五十雀
長谷川 茂	・個人会員委員長	熊谷山岳会
岩武 成秋	・監 事	UD・A・C
塩谷 壽子	・事務局	大宮山岳会

平成 27 年新春懇談会 敬称略

2015 年 2 月 1 日 大宮「日本海庄や」

	司会・加藤 富之
開式の言葉	: 県岳連副会長 ・相沢 重夫
新年ご挨拶	: 県岳連会長 ・石倉 昭一
ご 挨 拶	: 県岳連名誉会長 ・浅見 豊
来賓ご紹介	: 県岳連理事長 ・天野 賢一
代表ご祝辞	: 加須市生涯学習部長・綱川 敬蔵
乾 杯	: 県岳連顧問 ・田中文男
歓 談	
締 め	壺の♫・森下健七郎
	式の♫・宇津木秀二
	参の♫・岩崎 元郎
閉式の言葉	: 県岳連副会長 ・村岡 正巳

《懇談会参加者名》

綱川 敬蔵	・生涯学習部長 加須市長 代理
浅見 豊	・名誉顧問 恵流峰会
森下健七郎	・顧 問 高体連
田中 文男	・名誉会長 浦和山岳会
中田 弘	・参 与 元・浦和溪稜山岳会
平沼 伸一	・参 与 小川山の会
亀田 泰二	・参 与 川口市登山同好会
斉藤 勝男	・参 与 元・蔵ハイキングクラブ
三ツ木達男	・参 与 恵流峰会
山口 定男	・参 与 我逢人・信越山の会
古峰 孝	・参 与 加須ｽﾎﾟｰﾂｸﾗｲﾐﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ
石倉 昭一	・会 長 大宮アルパ・インクラブ
相沢 重夫	・副会長 川口市登山同好会

塚越 国雄	・代 表	深谷山岳会
岩崎 元郎	・主 宰	無名山塾
金澤 和則	・代 表	無名山塾
田口 浩昭	・	無名山塾
松本 善行	・	無名山塾
風間 進	・前代表	浦和溪稜山岳会
山口 新二	・理 事	UD・A・C
小茂田利孝	・69 国体監督	高体連
伊佐 恵	・前主将	防衛医大山岳同好会
大野 文雄	・	山学同人比企
石井 茂	・理 事	壁稜山岳会
吉田 秀夫	・代 表	JR 大宮山の会
熊谷 潔	・	蓮田山の会
原 卓也	・	大宮アルパ・インクラブ
宮崎 隆樹	・	大宮アルパ・インクラブ

下記の方より多大なご芳志戴きました、
厚く御礼申しあげます、有難うございました。

田中文男・名誉会長
岩崎繁夫・自然保護委員長
塩谷壽子・理事

《参与会参加者名》

2015 年 2 月 1 日 大宮/シノ大宮

田中 文男	・名誉会長	浦和山岳会
中田 弘	・参 与	元・浦和溪稜山岳会
平沼 伸一	・参 与	小川山の会
亀田 泰二	・参 与	川口市登山同好会
斉藤 勝男	・参 与	元・蔵ハイキングクラブ
三ツ木達男	・参 与	恵流峰会
山口 定男	・参 与	我逢人・信越山の会
古峰 孝	・参 与	加須ｽﾎﾟｰﾂｸﾗｲﾐﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ
		石倉会長他 7 名



平成 27 年参与会開催 石倉会長挨拶



26 年度の課題を説明



43 名参加の新春懇談会



懇談会が終り会場前にて

平成 26 年 11 月第 4 回理事会 報告

7 月 9 日 (水) 午後 7 時 30 分～ 北本市中央公民館

0 出席

石倉会長、相澤副会長、村岡副会長兼(企画)、加藤副会長兼(事務局)、天野理事長、瀬藤副理事長兼(遭対)、内海(強化)、岩崎(自然)、岩井田(広報)、長谷川(個人)、塩谷(事務局)
柴崎(川口)、岩本(エコー)、岡野(蓮田)、小茂田(高体連)、田中(岳稜)、柳原(小鹿野)、伊藤(防医)、仙波(槻岳)、小高(アルム)、笠原(彩岳) 計 21 名

1 開会挨拶 (村岡副会長)

2 会長挨拶 (石倉会長)

3 報告

①6/29 指導員総会&指導員研修会

(講師:堤信夫氏)

②6/1~30 第 11 回埼玉県立自然公園清掃登山

途中集計 14 団体 351 名

4 協議

(1)平成 26 年度評議員総会での課題について

①創立 60 周年記念事業・実行委員会予定

1:記念式典 講演+式典

2:記念誌 50 年~60 年の 10 年間の記録

3:記念山行「さいたま 100 山」登山

4:開催日 平成 27 年 11 月 28 日(土) 午後

②カレンダー作成について

締切 9 月 10 日 ★詳細は応募要項参照。

③寄付金について

(2)各会選出の理事と所属委員会について

・副理事長は宇津木元選手強化委員長

・競技副委員長は横内鉄郎(AC・山遊人・理事)

・各会派遣の理事の所属について

(3)70 国体関東ブロック大会・埼玉について

①経費関係について

・5/15 経費関係ヒアリング

・7/15 70 国体関東ブロック大会準備委員会の開催

②役員表とスタッフ募集について

(4)69 国体関東ブロック大会・役員視察について

(5)夏休み親子キャンプ 中止の経緯について

5. 各部からの報告等

①指導委員会

●6/29 指導員総会&指導員研修会 (講師:堤氏)

指導員 名参加、一般 名参加 大宮

○平成 26 年度指導員養成講習会

・9/28(日) 9 時~18 時 開校式・机上研修

スポーツクライミング研修 加須市民体育館

・10/18(土)-19(日) 登攀講習

ツェルト泊 登攀試験 飯能・天覧山

・1/17(土)-18(日) 積雪期講習

机上試験 実技試験 那須

②競技委員会

●6/7-8 第 28 回リトリブションカップ・国体リハサル大会
森下参加 長崎

○7/26-27 第 69 国体関東ブロック大会

○競技部ブロック研修会

期 日:平成 27 年 1 月 24 日(土)-25(日)

会 場:加須市民体育館・宿泊:第一ホテル

内 容 ①C 級クライミング 審判講習会 24-25 日
②競技運営講習会 25 日
③関東地区競技委員長会議 25 日

③選手強化委員会

○7/26-27 第 69 国体関東ブロック大会 について
栃木県今市青少年スポーツセンター

成年女子 選手 尾上彩 (埼玉県山岳連盟)
三上智子(T-WALL)

監督 門間希美(埼玉県庁)

少年男子 選手 波田悠貴(久喜工業高校)
渡邊海人(伊奈学園総合高校)

監督 内海 信(春日部工業高校)

少年女子 選手 坂井絢音(山村学園高校)
金子桃華(川越市立砂中学校)

監督 宇津木秀二(伊奈学園総合高校)

成年男子 選手 是永敬一郎(日体大)
鈴木友希(PUMP)

監督 未定

○8/2-4 JOC シュニアオリンピックカップ 富山県南砺市

★国際大会活躍 尾上彩(ボルタリング・ワールドカップ)

※本誌 8P 県内選手リザルト参照

④遭難対策委員会

●6/28-29 日山協遭対委員総会兼研修会 神奈川

●7/ 6 夏山遭難防止講習・研修

○7/12-13 レスキュー研究会・ロープ 破断テスト 富山

○9/4-10 日中韓登山技術交流会 谷川岳

⑤自然保護委員会

●6/1~30 第 11 回埼玉県立自然公園清掃登山

●6/14-15 日山協自然保護常任委員会研修会
岩崎他 8 人参加/計 25 名 御岳ビジターセンター

●6/21-22 三峰分校清掃及び自然保護委員会役員会
13(男 10、女 3)名参加 岳人の家

⑥海外登山委員会

●6/14-15 第 33 回海外登山遭難対策研究会兼
日山協国際委員会総会 5 名参加 長野県大町市

●7/1 例会 60 周年はイトの 6000m 峰/ ローズ隊の件

○7/12~8/上 キルギス山岳協会招待の「レニン峰」遠征に、
鈴木海外委員長が参加。

○7/11-20 ターキー・トレッキング(大宮山岳会・寺井他)

○平出和也氏講演会…講演依頼について

⑦ジュニア委員会

●6/17 高体連・学総体クライミング 競技・ボルタリング 川越

●6/20-22 インターハイ審査員研修会 箱根

●6/23 高体連・夏山机上講習会

○8/8-12 第 57 回全国高等学校登山大会・箱根

⑧広報委員会

○9/10 編集委員会 2

○9/30 第 49 号発行 12P/1600 部:国体報告他

⑨企画委員会

50 周年で実施した各会の調査を 60 周年でも実施。

⑩個人会員委員会

●6/28 総会(懇談会) 個人会員 2 名+1 名、委員 2 名
参加 石井スポーツ大宮店

●6/28 さいたま市岳連主催講演会(県警山岳救助隊
飯田副隊長講演)に 5 名参加 大宮

⑪事務局

☆平成 26 年度会員証について

⑫その他

○9/26-28 中高年安全登山指導者講習会「東部地区」
青森県・岩木山

○11/23 日山協 広島山岳平和祭・UAAA20 周年記念
広島平和記念公園

○11/16・日 深谷山岳会創立 50 周年記念祝賀会
17:00~ グラントホテル深谷

6. 閉会挨拶 (相澤副会長)

平成 27 年 1 月第 6 回理事会 報告

1 月 14 日(水)午後 7 時 30 分~ 北本市中央公民館

0 出席

石倉会長、相澤副会長、村岡副会長兼(企画)、加藤副会長兼(事務局長)、天野理事長、瀬藤副理事長兼(遭対)、野村(指導)、内海(強化)、鈴木(海外)、岩井田(広報)、長谷川(個人)、塩谷(事務局)

柴崎(川口)、山口(UD)、吉田(JR)、小高(アルム)、岩本(エコー)、小茂田(高体連)、田中(岳稜)、柳原(小鹿野)、伊藤(防衛医)、大山(比企)、笠原(彩岳)、佐藤(SMA)岡野(蓮田)

計 25 名

1 開会挨拶 (相澤副会長)

2 会長挨拶 (石倉会長)

3 報告

①12/9 第 5 回全国高等学校選抜クライミング 選手権大会
実行委員会(大宮)

②12/23-24 第 5 回全国高等学校選抜クライミング 選手権大会(加須)→<別途リザルト・報告>

個人戦:男女とも埼玉選手が優勝。団体男子も埼玉・久喜工業高校が優勝。参加 41 県

③彩・岳悠会事故報告→新聞でも報道されましたが、梅津氏が年末に女峰山で遭難。1/10 発見され 13 日に収容されました。

4 協議

(1)70 国体関東ブロック・埼玉大会について

①参加申込期限について

②競技日程について

「関東地区山岳連盟総会」で、要項案を出す。総務員数の削減を提案。

③実行委員会 1/22・木・19:00~加須市民体育館にて

(2)競技部ブロック研修会(1/24-25)

日山協主催 埼玉岳連(主管)について

・期日:平成 27 年 1 月 24 日(土)~25(日)

・会場:加須市民体育館

・内容:①C 級クライミング審判講習会 ※31 名

②競技運営認定講習会 ※14 名

③関東地区競技委員長会議 ※9 名

(3)2 月 1 日 県岳連新春懇談会・参与会について

①参与会 ・会場:シノ大宮 5F 講座室

②新春懇談会はシノ大宮 1F 日本海庄や

(4)創立 60 周年記念事業・実行委員会について
(11/28・土 午後 ~開催)

①記念式典→講演及び式典について

(天野・加藤・野村・土屋・宇津木・長谷川・塩谷)

②記念誌 →記録集(メディア化)について

(岩井田・村岡・鈴木)

③記念山行→60 座登山計画について

(石倉・相沢・岩崎・瀬藤・内海・野村匠)

今回は、記念登山のための候補地としての 100 山とする。

(5)県体育功労賞・優秀選手賞の推薦について

体育功労賞: 小茂田利孝:選手強化委員(監督)、

優秀選手賞: 尾上 彩 (世界ユース 1 位)、

波田悠貴 (JOC1 位)

(6)「2015 カレンダー」の販売状況等について

(7)ジャパンカップボルダリング大会について

2 月 21-22 日、深谷クライミングヴァレッジ

(8)平成 26 年度関東地区山岳連盟総会

2015 年 2 月 21 日(土)13:30~

参加者:石倉会長、村岡副会長、相澤副会長、天野理事長、(土屋競技委員長)

(9)蕨市山岳連盟「安全登山を考える集い」名義後援
願い について

(10)積雪期緊急避難講習会開催について

(11)旧三峯分校「岳人の家」閉所式 開催について

5.各部からの報告等

①指導委員会

○平成 26 年度指導員養成講習会

1/17・土・18・日 積雪期講習/机上試験/実技試験

40 人(一般 16、研修等 17、講師 7)参加 那須

○2/14-15 平成 26 年度 氷雪技術に関する指導員の

教育と研修及び主任検定員養成講習会

(A 級・B 級)・上級指導員養成講習会

②競技委員会

●12/23-24 第 5 回全国高等学校選抜 C 選手権大会

○2015 年 1/24-25 競技部ブロック研修会

○2015 年 2/21-22 ボルダリングジャパンカップ(主管)
深谷クライミングヴァレッジ

③選手強化委員会

●12/19 ジュニア強化担当者会議 16:00~ 小茂田

●12/23-24 第 5 回全国高等学校選抜 C 選手権大会

●12/26 県知事表敬訪問 尾上彩 世界ユース 1 位
(石倉、天野、尾上、内海、小茂田、森下)

○プロナキッズ計画 ・平成 27 年 1 月 18 日(日)、2 月 1
日(日)午前 9 時~11 時 川越ロッククラフトにて開催。

④遭難対策委員会

●12/13-14 平成 26 年度 冬山遭難防止研修・講習
会 47・46 名参加 スポーツ研修センター

○1/23-25 日山協 平成 26 年度山岳レスキュー講習会

⑤自然保護委員会

○2/21-22 フォレストビバーク及び耐寒訓練計画 三峰

○3/25-26 旧三峯分校「岳人の家」閉所式 三峰

⑥海外登山委員会

●12/6 海外登山報告会(研究会)17:00~大宮ポプラ

○平出和也氏講演会…調整中

○3/7-8 日山協第 53 回海外登山技術研究会

⑦ジュニア委員会

○2/14 平成 26 年度ジュニア・普及情報交換会

⑧広報委員会

○2/中 第 50 号・発行予定 16p 特別号

⑨企画委員会

○60 周年企画「クラブデータベース」「山岳会・クラブ探訪」

○トラン開催の検討「村岡・佐藤・小茂田」で検討。

⑩個人会員委員会

・ふじみの市・大河原氏 加入

⑪事務局

○日山協の新春懇談会 1/17・土

○都岳連「2015 年新春の集い」1/24 東京グランドホテル

○日山協からの案内等「国体正式競技の継続に向け
て」「国体ブロック大会出場について」

6.閉会挨拶(村岡副会長)

~~~~~

## 訃 報

彩・岳悠会会員 梅津慎吾氏(享年 47 歳)  
が 2014 年 12 月 30 日ごろ、日光・女峰山に  
於いて遭難、1 月 10 日に 2 回目の捜索の際、  
発見され、収容されました。

御葬儀は 1 月 20 日に執り行われました。

ここに謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈  
り申し上げます。

埼玉県山岳連盟 一同

## 第 69 回・長崎国体』報告

【第 69 回長崎国体】 10 月 16 日(金)~19 日(日)

大村高校・大村公園特設会場

競技別 天皇杯男女総合順位 7 位 (得点 58 点)

得点内訳 成年男子総合 9.0 点

少年男子総合 3 9.0 点 参加点 10 点

競技順位 成年男子

是永敬一郎・鈴木 友希 監督:小茂田利孝

リト予選 2 位 ボルダリング予選 11 位

競技順位 少年男子

波田 悠貴・渡邊 海人 監督:内海 信

リト予選 8 位 ボルダリング予選 4 位

応援団: 森下前会長 (日山協・常務理事)・小峰副会長・村岡副会長・天野理事長・塩谷理事 (県岳連・事務局)、クライミングジム関係者など。  
県体協 長谷川様、県スポーツ振興課遠井様



表彰式後 左から内海監督、渡邊、波田選手、森下前会長 (日山協・常務理事)

### 『長崎国体』を終えて

県岳連 選手強化委員長  
内海 信

10 月 16 日木曜日(私の誕生日)の監督会議から長崎国体は始まりました。

成年男子、是永・鈴木選手出場のボルダー予選は、終盤逆転され決勝進出ならず。リトは鈴木選手の頑張りで予選 2 位の好位置に付けるも、最終日の決勝においては連日の疲れか、6 位の成績で競技を終える。

少年男子、波田・渡邊選手が出場。リト予選は、両選手とも完登するが、波田選手ハガーを踏む反則を取られ、決勝進出成るも予選 8 位、昨年東京国体の悪夢がよみがえる。決勝は一番手で登場、2 人とも手順が解らないと言っていた壁上部、大胆に上を取りに行った渡邊選手、掛かりが浅くフォールする。順調に高度を稼ぐ波田選手、完登手前で惜しくもフォールしたが、3 位の成績で競技を終える。ボルダー予選、2

人で 5 完登 4 位に付け予選は余裕で通過する。最終日決勝、好調な出だしで一撃を連発する、しかし、栃木県チームに最後に抜かれ、2 位の成績で競技を終えることが出来ました。

天皇杯男女総合 7 位での閉会式・表彰式、受賞代表の渡邊選手、応援に来ていたお母様の前で胸を張り登壇、賞状を手にする、監督として胸の熱くなる瞬間でした。

今年も和歌山国体に向けて、すでに一步を踏み出しています。皆様応援宜しくお願い致します。

## クライミングカップ・県総合体育大会

2014/11/30 加須市民体育館



キッズ入賞の左から牧田、矢部、内田の各選手

### 《リザルト》

| 【トップ ロープ キッズ】 参加者 19 名 |           |                 |
|------------------------|-----------|-----------------|
| 県体 1 位                 | (総合 2 位)  | 矢部 七海           |
| 県体 2 位                 | (総合 4 位)  | 牧田 岳 RC 川越      |
| 県体 3 位                 | (総合 5 位)  | 内田 花奈 RC 川越     |
| 【トップ ロープ 一般】 参加者 10 名  |           |                 |
| 県体 1 位                 | (総合 1 位)  | 鈴木 弘大 東洋大       |
| 県体 2 位                 | (総合 2 位)  | 塙 裕夢 東洋大        |
| 県体 3 位                 | (総合 3 位)  | 村木 統威 東洋大       |
| 【リト ビギナー】 参加者 16 名     |           |                 |
| 県体 1 位                 | (総合 1 位)  | 須見 真絢 Base Camp |
| 県体 2 位                 | (総合 2 位)  | 大場 拓真 pump1     |
| 県体 3 位                 | (総合 3 位)  | 別所 綱 RC 川越      |
| 【リト ジュニア】 参加者 19 名     |           |                 |
| 県体 1 位                 | (総合 11 位) | 勝見 文音 RC 川越     |
| 県体 2 位                 | (総合 13 位) | 猪鼻 碧人 RC 川越     |
| 県体 3 位                 | (総合 16 位) | 鈴鹿 凜 Base Camp  |
| 【リト ミドル】 参加者 26 名      |           |                 |
| 県体 1 位                 | (総合 2 位)  | 白石裕次郎 伊奈学園      |
| 県体 2 位                 | (総合 6 位)  | 鶴 隼斗 Base Camp  |
| 県体 3 位                 | (総合 8 位)  | 木村 大夢 Base Camp |
| 参加者総数 154 名            |           |                 |

## 第 5 回全国高等学校選抜 クライミング選手権大会

2014/12/23-24 加須市民体育館

41 都道府県の選手を迎え『第 5 回全国高等学校選抜クライミング選手権』大会が加須市民体育館で行われた。

軽快な曲が流れるなか、北海道チームを先頭に順次選手が入場、司会の松村アケから選手紹介が行われた。

森下健七郎・大会委員長の開会宣言のあと、前年度優勝校の(男子)浜松・日体高等学校及び(女子)宮城・東北高等学校から優勝杯が日本山岳協会・神崎忠男会長にそれぞれ返還された。

主催者挨拶を日本山岳協会・神崎忠男会長から、歓迎の挨拶を大会名誉会長・大橋良一加須市長から『加須市では、市を挙げてクライミングの普及推進を図っております。加須市山岳連盟が中心となり、小学生から壮年者に至る幅広い年代の方々が完登を目指し練習されており、この中から世界に通用するトップクライマーが輩出されることを期待しております』と熱いメッセージを全選手に向け述べられました。

選手参加者は 188 名(男子 104 名、女子 84 名)を数え、参加校 52 校(男子 31 校、女子 21 校)。

来賓紹介、協賛企業の紹介、主催者の紹介が行われ、選手宣誓を浜松・日体高校 鈴木正信選手によって行われ 2 日間の競技はスタート。

初日の予選は 2 面のルート(男子 13a、女子 12b/c)をフラッシングで全員 2 本、男子 104 名中予選通過は 27 名、女子 84 名中予選通過と 25 名と絞られた。

2 日目は準決勝、決勝競技(男子 13b/c)(女子 13a)をわすれで 8 時 50 分からスタート。男子 27 名中 8 名(競技順・久貝悠太、豊田将史、大高伽弥、野村真一郎、渡邊海人、原田海、島谷尚季、波田悠貴)が決勝進出を決める、女子 25 名中 8 名(競技順・山下真由、木下茜、大場美和、坂井絢音、中村祐香梨、善村萌、錦 美里、野中生萌)が決勝へ進出。最後の力を出して決戦に挑んだ。地元埼玉は男女で優勝、学校別でも男子校が優勝し文字通り有終の美を飾った。



個人男女優勝 坂井 絢音選手・波田 悠貴選手

### 《男子 個人別》

- 1 位 波田 悠貴・埼玉：久喜工業高校
- 2 位 原田 海 ・大阪：羽衣学園高校
- 3 位 島谷 尚季・千葉：幕張総合高校

### 《男子 学校別》

- 1 位 埼玉：久喜工業高校・波田 悠貴＋神田 慎
- 2 位 山口：防府高校 ・蔭谷 康平＋渡邊 浩幸
- 3 位 静岡：浜松日体高校・鈴木 正信＋伊藤 優輝



男子決勝(13a) 波田悠貴選手

### 《女子 個人別》

- 1 位 坂井 絢音・埼玉：山村学園高校
- 2 位 義村 萌 ・三重：津東高校
- 3 位 野中 生萌・東京：日出高校

### 《女子 学校別》

- 1 位 静岡：浜松日体高校 中村祐香梨＋北脇 順子
- 2 位 長崎：佐世保東翔高校 木下 茜＋大河内芹香
- 3 位 佐賀：多久高校 岸川 弓子＋渡島 奈緒
- 17 位 埼玉：上尾南高校 安部 文菜＋佐藤 綾香



女子決勝(13a) 坂井 絢音選手

※第 1 回大会(平成 22 年)埼玉が 2 冠を獲得

男子優勝(細田 匠)、男子優勝高(久喜工業高校)

※第 5 回大会(平成 26 年)で 3 冠獲得。

男子優勝高(久喜工業高校)、

男子優勝(波田 悠貴)、女子優勝(坂井 絢音)

を獲得したことは特筆に値する快挙で将来は完全優勝(4 冠)も夢でないと……。

文責・岩井田正昭



## 冬山遭難防止研修・講習会

2014/12/13-14 埼玉県庁・センター

遭難対策委員会



恵講師の指導で怪我人の移動方法を学ぶ

参加者：12/13 41 名（研修 11 名、講習 30 名）

12/14 52 名（研修 14 名、講習 38 名）

講 師：日山協：医科学委員会 ・恵 秀彦

：南アルプス市白根御池小屋 ・高妻潤一郎

：埼玉県警山岳救助隊 ・古畑純一郎

：県岳連遭対委員長 ・瀬藤 武

（アシスト）風間 進、鈴木百合子、岩井田正昭

13 日午前中は全体講義として「救急医療講習」を全員で実技行う、午後からはクラス分けして登山中を想定して有るものを使い、副木による応急処置を班ごとに行う。

14 日午前中は前日と変わって主として救急の搬送をメインに行った、徒手搬送、シート担架、ザック、雨具などを併用して搬送のテクニックを班別に行った。



テレビ 良い話に身を乗り出して

午後からは恒例の「今年起きた秩父周辺の遭難事案」を解説して戴いていた飯田副隊長が所用で参加出来ないため急遽、抜擢された若手の古畑隊員が講師を務めて戴くことになった。初めてですと言う割には旧知の仲間に話しかけるような話術にみな静かに聞き入り余韻を残して無事終了しました。

文責・岩井田

## 積雪期登山講習会・指導員研修会

2015/1/17-18 那須岳周辺

指導委員会/遭難対策委員会 共催

参加者数・カテゴリー別

初 級：秋庭講師 以下 5 名、

中上級：佐藤主任講師、金子講師 以下 9 名

上級指導員養成：瀬藤、鈴木（百）講師 以下 5 名

指導員養成：鈴木、天野、計良講師 以下 12 名

研 修：（天野、鈴木） 2 名

講 師：佐藤主任講師、瀬藤、野村、秋庭、鈴木（一）

計良、金子講師 7 名 計 40 名



急斜面を使って雪上訓練

1/17 那須「大丸温泉旅館」に集合、受付後開講式を行い、指導員、上級指導員、養成クラスは筆記試験を受験後、スキー場下部の傾斜面の講習場所に移動。

クラス分けによる初級（1 班）、中上級（2 班）、上級養成（1 班）、指導養成（3 班）の計 7 班に分散、雪上実技講習を行った、一旦宿舎に戻り夕食までの時間を約 1 時間机上講習を行い、その後に入浴、夕食、懇親会となった。



参加者全員集合

1/18 朝食後、昨日と同じ場所で実技講習を繰り返して行なった。午後に宿舎に戻り、閉講式を行い解散。

※参加感想文を 12p に掲載

文責・岩井田



## 【広報誌 50 号記念・特集】

### 「岳連報 今昔とこれから」

県岳連事務局長 加藤富之  
「岳連報」通刊 50 号発行、おめでとうございます。

特に、編集委員長の岩井田正昭氏には、これまでの編集と発行に感謝申し上げます。

2002(平成 14)年 2 月 28 日発行の第 12 号を皮切りに、岩井田氏は精力的且つ積極的に埼玉県山岳連盟の各事業取材し、編集と発行作業に励みました。それまで、私の知る限り「岳連報」が発行されたのは、1997(平成 9)年の発行(第 11 号)が最後でした。それも 1984(昭和 59)年の発行(第 10 号)以来実に 13 年ぶりの発行でした。前年の 1996(平成 8)年、埼玉県山岳連盟の組織や規約が全面改定されたのを受けての発行でしたが、残念ながらその後も発行は進みませんでした。2001(平成 11)年、新しい執行部の出発を期に、前々理事長の福田靖氏と県岳連の情報宣伝活動を司る「広報委員会」の担当者を捜していました。その年、天覧山での遭対訓練の時、岩井田氏にお会いし、県岳連の実情を理解してもらい広報担当を受諾していただきました。その後、年間 4 回発行を目指して順調に発行。2005(平成 17)年には、埼玉県山岳連盟『創立 50 周年記念誌-50 年の歩みと仲間たち-』も発行し、この 50 年間の「埼玉県岳連史」の基本となる資料を収集・整理していただきました。感謝感激です。その後、経費削減から年 3 回の発行となりましたが引き続き取材と編集、発行に励み、2015(平成 27)年春、記念すべき第 50 号の発行となりました。12 号発行から数えて 13 年、39 号めです。大変ご苦労さまでした。これまでの絶え間ない活動に感謝すると共に、さらなる発行継続をお願いいたします。これからの「岳連報」インターネットに代表される情報化社会の現在、直接顔を合わせての集会や例会、会議が減少し、メールでのやりとりが日常化しています。伝言程度であればメールでよいのですが、協議すべきことはなかなかメールでは伝わらず、決まらず、まだまだ不自由です。機械操作に巧みな若者は(もしかしたら)、もう自由なのかも知れませんが、「すべての人」と限定するとまだまだです。メールが便利になったといえ、直接会って話すことは重要で、間違いがありません。同じように考えて「岳連報」のデジタル化はどうだろうか。私は、消えてなくなるようなデジタルブック(電子書籍)よりも、活字で印刷された物が親しみやすい。

スイッチを入れることなく、手にとって簡単に読めるし、ぺらぺらとページをめくったり、偶然にも面白い記事を発見ということもある。しかし、読後の保存を考えると印刷物は肩身が狭い。デジタルファイルは保存に場所をとらず、検索も簡単だ。情報誌的印刷物は、直

ぐ読めることが第一で、その後は基本的に役割がなくなる。しかし、過去を探るときは重要な情報が含まれている。その時々情報を記録しておくことは重要だ。これからは、著作権や肖像権、個人情報等が課題となるが、「印刷物」と同時に「デジタルファイル化」が必至だ。過去の「岳連報」は、そろそろ時効でデジタル化は可能であろう。上部団体の日山協でも「月報」をバックナンバーとして、出版 1 年を経たものを PDF ファイルで公開している。最新のニュースでは、3 月末で知ネメール便が廃止となるらしい。ここ数年格安通信費として便利に使ってきたが潮時となった。月報や理事会記録等の発送作業は事務処理を増大し、郵送費の高騰は、県岳連の会計を苦しめています。次世代に岳連を引き継ぐためにも、これらのデジタル化は必至となるでしょう。宜しく願いいたします。

~~~~~

岳連報 50 号発行について (敬称略)

『埼玉岳連』報創刊号に記載された『編集後書』から抜粋 創刊号 ※注-1

『石の上にも三年の喩。埼玉岳連の歩みを、書き綴って行かねばならないことを常日頃考えていたが、今日漸くにして第一号を発刊することに漕ぎつけた。編集に際して、あれやこれやと構想はしてみたものの出来上がったものは、御覧の通りの内容の乏しい単なる報告書の域を脱しないものとなってしまった。名実ともに埼玉岳連の機関紙をして、独自のカラーをもった、しかも豊富な内容溢れるものにしたいが、岳連諸兄の投稿によって実現出来ることを確信する。登山即書くことである。諸兄の協力と叱咤を切望するものである。尚体協十周年記念事業として埼玉体育史(※注 2)を編纂することになったが、埼玉岳連としても、埼玉山岳史とも云うべきものを書き綴らねばならないと思う。その資料収集も容易ならざる仕事となろう。よろしく諸兄の協力をお願いするものである』

編集 尾崎正義記(※注 3)

※注 1・本誌 11p 参照

※注 2・埼玉県体育史第 1 巻 昭和 39 年 2 月に発行

※注 3・初代編集者で県岳連の創立者の一人

~~~~~

### 「星 霜」

岳連創立(昭和 30 年/1955 年)から 3 年後に県岳連の機関紙・『埼玉岳連』報・創刊号(昭和 33 年/1958 年・編集者/尾崎正義)が発行された。上記の編集後書は当時の編集者の意気込みが感じられます。そして岳連創立から丁度 60 年後の平成 27 年に、偶然にも通巻 50 号が発行することになった。

(10p : 埼玉岳連報 紙面概要を参照)

※12p に続く

## 創刊号から 50 号 (タイトルは故清水武甲先生の揮毫)



《創刊号 (B5 版) 昭和 33 年 7 月》

『埼玉県山岳連盟規約』が公表された当時の登録団体数は 57 団体、現存 10 団体



《第 10 号 (B5 版) 昭和 59 年 3 月》

前年の昭和 58 年に「第 22 回全日大会」と「第 38 回ニ国体」が初めて同一年で開催



《第 20 号 (A4 版) 平成 16 年 6 月》

埼玉国体のリハサル、本大会へ続く、当時は縦走、踏査、登攀の 3 カテゴリーがあった。



《第 30 号 平成 20 年 5 月》

埼玉インターハイが 8 月に開催、



《第 40 号 平成 23 年 9 月》

田中名誉会長・日山協会長退任慰労会開催

《第 50 号 平成 27 年 1 月》  
60 周年記念式典 盛況を目指して

## 『埼玉岳連報』 創刊号～50号 紙面概要

H27. 1. 31

| 発行日         | 西暦   | 号数   | p   | 発行人   | 編集者   | 一面記事タイトル及び執筆者/頁書   | 備考                             |          |
|-------------|------|------|-----|-------|-------|--------------------|--------------------------------|----------|
| S30. 8. 28  | 1955 |      |     |       |       | 創立                 | (埼玉県山岳連盟結成・会長/清水 武申、副会長/高橋 哲二) |          |
| S33. 7. 1   | 1958 | 創刊号  | 6P  | 池田甚兵衛 | 尾崎 正義 | 『埼玉岳連の歩み』          | 理事長・池田甚兵衛                      |          |
| S46. 10. 1  | 1971 | 第1号  | 4P  | 清水 武申 | 田中 文男 | 『話合いの広場に』          | 会長・清水 武申                       |          |
| S47. 10. 1  | 1972 | 第2号  | 4P  | 〃     | 花輪 滋実 | 『登山に思う』            | 会長・清水 武申                       |          |
| S48. 1. 1   | 1973 | 第3号  | 4P  | 〃     | 〃     | 『これからの大衆登山』        | 副理事長・三浦 一郎                     |          |
| S48. 4. 1   | 〃    | 第4号  | 4P  | 〃     | 〃     | 『自然に入って行こう』        | 副会長・大沢 亮一                      |          |
| S48. 9. 1   | 〃    | 第5号  | 4P  | 〃     | 〃     | 『山について気のついた事』      | 理事長・野井 篤                       |          |
| S48. 10. 1  | 〃    | 第6号  | 4P  | 〃     | 〃     | 『遭難は予防できる』         | 副会長・三浦 一郎(日山協/遭対常任)            |          |
| S49. 11. 1  | 1974 | 第7号  | 4P  | 〃     | 〃     | 『冬山登山に願う』          | 会長・清水 武申                       |          |
| S57. 7. 10  | 1982 | 第8号  | 6P  | 〃     | 大久保 孟 | 『県岳連運営について』        | 理事長・田中 文男                      |          |
| S57. 12. 15 | 〃    | 第9号  | 4P  | 〃     | 〃     | 『奥秩父の登山道』          | 会長・清水 武申                       |          |
| S59. 3. 15  | 1984 | 第10号 | 6P  | 〃     | 〃     | 『ご挨拶』              | 会長・清水 武申                       |          |
| H9. 10. 1   | 1997 | 第11号 | 6P  | 浅見 豊  | 〃     | 『ご挨拶』              | 会長・浅見豊                         |          |
| H14. 2. 28  | 2002 | 第12号 | 6P  | 田中 文男 | 岩井田正昭 | 『2002年を迎えて』        | 会長・田中 文男                       |          |
| H14. 6. 30  | 〃    | 第13号 | 6P  | 〃     | 〃     | 『7Jエンダ21埼玉』        | 自然保護部                          |          |
| H14. 10. 31 | 〃    | 第14号 | 6P  | 〃     | 〃     | 『少年男子1位・関東突破』      | 広報委員会                          |          |
| H15. 3. 31  | 2003 | 第15号 | 8P  | 〃     | 〃     | 『よさこい高知国体』速報       | 広報委員会                          |          |
| H15. 6. 30  | 〃    | 第16号 | 8P  | 〃     | 〃     | 『平成15年度評議員総会』開催    | 広報委員会                          |          |
| H15. 9. 30  | 〃    | 第17号 | 8P  | 〃     | 〃     | 『第6回ジュニアリビックカップ』   | 副会長・森下健七郎                      |          |
| H15. 12. 31 | 〃    | 第18号 | 8P  | 〃     | 〃     | 『静岡国体で考えたこと』       | 会長・田中 文男                       |          |
| H16. 3. 31  | 2004 | 第19号 | 4P  | 〃     | 〃     | 『国体選手慰労会・新年会』      | 広報委員会                          |          |
| H16. 6. 30  | 〃    | 第20号 | 10P | 〃     | 〃     | 『平成16年度新役員』きまる     | 広報委員会                          |          |
| H17. 1. 31  | 2005 | 第21号 | 6P  | 〃     | 〃     | 50周年               | 『2005年新しい目標に向かって進もう』           | 会長・田中 文男 |
| H17. 5. 31  | 〃    | 第22号 | 8P  | 〃     | 〃     | 『平成17年度評議員総会』報告    | 広報委員会                          |          |
| H17. 12. 31 | 〃    | 第23号 | 8P  | 〃     | 〃     | 『お礼の言葉』            | 会長・田中 文男                       |          |
| H18. 4. 30  | 2006 | 第24号 | 12P | 〃     | 〃     | 『巻頭言』              | 理事長・村岡 正巳                      |          |
| H18. 10. 31 | 〃    | 第25号 | 12P | 〃     | 〃     | 『巻頭言』              | 会長・田中 文男                       |          |
| H19. 2. 28  | 2007 | 第26号 | 10P | 〃     | 〃     | 『未来を明るくするために』      | 理事長・村岡 正巳                      |          |
| H19. 4. 30  | 〃    | 第27号 | 8P  | 〃     | 〃     | 『平成19年度評議員総会』報告    | 広報委員会                          |          |
| H19. 9. 30  | 〃    | 第28号 | 8P  | 〃     | 〃     | 『62国体・関プロ山岳競技から』   | 審判長・土屋 正昭                      |          |
| H20. 2. 29  | 2006 | 第29号 | 8P  | 〃     | 〃     | 『日本の世界標準』          | 理事長・村岡 正巳                      |          |
| H20. 5. 31  | 〃    | 第30号 | 10P | 〃     | 〃     | 『新会長に就任するに当たって』    | 会長・森下健七郎                       |          |
| H20. 9. 30  | 〃    | 第31号 | 10P | 〃     | 〃     | 『全国総体登山大会を終えて』     | 会長・森下健七郎                       |          |
| H21. 1. 31  | 2009 | 第32号 | 10P | 〃     | 〃     | 『新年のご挨拶』           | 会長・森下健七郎                       |          |
| H21. 5. 31  | 〃    | 第33号 | 10P | 〃     | 〃     | 『新理事長に就任して』        | 理事長・天野 賢一                      |          |
| H21. 9. 30  | 〃    | 第34号 | 12P | 森下健七郎 | 岩井田正昭 | 『日山協・自然保護委員長に就任して』 | 国体委員長・長谷川 茂                    |          |
| H22. 1. 31  | 2010 | 第35号 | 8P  | 〃     | 〃     | 『巻頭言』              | 会長・森下健七郎                       |          |
| H22. 5. 31  | 〃    | 第36号 | 10P | 〃     | 〃     | 『平成22年度評議員総会』報告    | 広報委員会                          |          |
| H22. 9. 30  | 〃    | 第37号 | 8P  | 〃     | 〃     | 『千葉本国体で入賞！』        | 選手強化委員・小茂田利孝                   |          |
| H23. 1. 31  | 2011 | 第38号 | 10P | 〃     | 〃     | 『新年のご挨拶』           | 森下健七郎                          |          |
| H23. 5. 31  | 〃    | 第39号 | 10P | 〃     | 〃     | 『日山協会長退任のご挨拶』      | 前会長・田中 文男                      |          |
| H23. 9. 30  | 〃    | 第40号 | 10P | 〃     | 〃     | 『日山協・自然保護委員長に就任して』 | 副会長・石倉 昭一                      |          |
| H24. 1. 31  | 2012 | 第41号 | 12P | 〃     | 〃     | 『新年のご挨拶』           | 会長・森下健七郎                       |          |
| H24. 5. 31  | 〃    | 第42号 | 12P | 〃     | 〃     | 『今年度の具体的な課題・目標』    | 会長・森下健七郎                       |          |
| H24. 9. 30  | 〃    | 第43号 | 12P | 〃     | 〃     | 『巻頭言』              | 会長・森下健七郎                       |          |
| H25. 1. 31  | 2013 | 第44号 | 12P | 〃     | 〃     | 『新年巻頭言』            | 会長・森下健七郎                       |          |
| H25. 5. 31  | 〃    | 第45号 | 12P | 〃     | 〃     | 『巻頭言』              | 会長・森下健七郎                       |          |
| H25. 9. 30  | 〃    | 第46号 | 14P | 〃     | 〃     | 『親子自然観察教室を終え』      | 企画委員長・長谷川 茂                    |          |
| H26. 1. 31  | 2014 | 第47号 | 12P | 〃     | 〃     | 『巻頭言』              | 会長・森下健七郎                       |          |
| H26. 5. 31  | 〃    | 第48号 | 12P | 石倉 昭一 | 岩井田正昭 | 『県岳連会長に就任して』       | 会長・石倉 昭一                       |          |
| H26. 9. 30  | 〃    | 第49号 | 12p | 〃     | 〃     | 『崖っぷち』             | 副会長・村岡 正巳                      |          |
| H27. 1. 31  | 2015 | 第50号 | 16P | 〃     | 〃     | 60周年               | 『新年巻頭言』                        | 会長・石倉 昭一 |

紙面の編纂 ※創刊号～11号 (B5版縦書)、12号～38号 (A4版・縦書)、39号～50号 (A4版・横書)

紙面の編纂 ※創刊号～11号 (B5版縦書)、12号～38号 (A4版・縦書)、39号～50号 (A4版・横書)

**2015/1/17-18 積雪期登山講習会に参加して**

アルパ インクラブ 山遊人：小澤直美

「インナーロープでアイゼン装着している人がいますが、必ずオーバーロープで装着するように。雪山では常識です！」その声にハッとし、緩んでいた気が一瞬で引き締まりました。その時インナー手袋でアイゼンを装着していたのが私だったのです。アルパ インクラブ 山遊人に入会后、今回が初めての講習参加で山岳会の仲間と一緒に技術を学べるという喜びが先攻してしまい、気が緩んだまま「講習が始まる前だし、いいかな」と安易に構えていたのです。早々に、山に向合う自分の未熟な姿勢に反省しながらのスタートとなりました。一方、この一言で真剣山モードに入り結果的に充実した 2 日間を過ごす事ができました。

1 日目、ダガーポジションでステップカッティングしながら急斜面を登ることから始まり滑落停止訓練、土嚢とスノーアンカーで支点を構築し強度をチェック。土嚢にリングを巻いて埋めるだけで本当に強固な支点が構築できるのか半信半疑でしたが、実際に思い切り体重や衝撃を加えてもびくともしなかったのは、とても驚きました。滑落停止は以前にも訓練したことがあった為、簡単だろうと高を括っていましたが最初の 3 回は停止できず、結局マンツーマンでご指導頂きました。的確な指摘と体勢是正の結果、指導後の 4 回目はスグに停止に成功することができました。思い込みと事実とに相違があることをこの滑落停止で再確認し、「以前できたからできると思った」と何か起きた後に言うことがないよう、習得した技術は普段から再確認という意味合いでも積極的に復習する必要性があると強く感じました。1 日目の夕食後、金子講師に復習予習をするので大広間に集まるよう声を掛けて頂き、大広間に移動してみると既に他コースの受講者も各自熱心にロープワークを練習していました。あっと言う間に大広間は講師の方々と受講者とロープで一杯になり復習予習は夜遅くまで続けました。講習に集まった方々の意欲の高さと講師の方々が惜しみなく技術・知識を熱心に教示される姿勢に大変感銘を受けました。この大広間の熱い雰囲気の中に数時間身を置いた私は、今まで憧れていたアルパ インクライミングのスタートラインにやっと立つことができたんだと改めて奮起し、翌日の講習へ向けモチベーションが更に上がりました。

2 日目、「スタンディングアックスベレイからの自己脱出、3 分の 1 システムによる引き上げ」。今回のメインになった習得技術です。講習 1 日目の朝に佐藤講師からこの技術を完璧にできるようになって帰ってもらうことが中上級者クラスの目標だと聞きましたが、その時はこの技術が何を意味するのか想像もつかないまま講習がスタートし、「はたして内容についていけるのか。2 日間が無事に終わるのか。」と一瞬にして不安になりました。しか

し一旦講習が始まればそんな不安を感じる余裕もなく、教えられるがまま無我夢中、見よう見まねでロープワークを繰り返すうちに何となく形になってきたもののインターヒッチが巧みかからない、手順を間違える、滑落者をスムーズに止められない等、完璧にはほど遠い出来でした。このように困惑する場面が多く有りましたが、講師の方々の真剣で熱の入ったご指導や同じ班の方に助言を頂きながら 2 日目の講習終了間近によりやく 1 人で一連のワークをこなせるようになりました。2 日間あいにくの降雪と那須岳特有の強風の中、寒さと向き合いながらの受講となりました。しかしながら厳しい条件下でロープワークの難しさを体験できた点や同じコースの他受講者と相談、連携しながら寒さの中課題を修了できた点に於いて、この週末に講習を受講できて良かったと思っています。

私は登山歴 5 年目で、今まで主に縦走で登山を楽しんできましたが、いつかアルパ インクライミングで頂を踏んでみたいという目標があり去年アルパ インクラブ 山遊人に入会しました。今、仲間と共に練習を積み重ね互いに切磋琢磨し、技術・レベルを向上させ目標に向かって充実した日々を送れていることに大きな魅力と喜びを感じています。そしてその仲間と今回埼玉岳連の講習会に参加させて頂き、素晴らしい講師の方々のもと新しい技術を習得し更に 1 ステップ前に踏み出す事ができました。今回習得した技術が記憶の片隅に埋もれることのないようアルパ インクラブ 山遊人では仲間と復習を続けています。そしてこの技術習得で自己満足、完結するのではなく仲間の技術向上のためにも周知を心がけていきたいと思います。今後も講習に積極的に参加し、日々の鍛錬に加え経験数を増やしながら素早い対応能力も身につけることを目標に精進していきたいと思います。

~~~~~

※9p より続く

創刊号発行以来は、紆余曲折のなか数回の中断を超えながら創刊号から 11 号（平成 9 年/1997 年）まで前任者のご尽力で発行戴いたあと 12 号（平成 14 年/2002 年）からバトタッチ、創刊 50 号（平成 27 年/2025 年）の節目を飾ることが出来たのは、大変名誉な事と思います。

これまでに、実に多くの方々に『原稿おねがい！』を連発、ご迷惑おかけしたを紙面お借りしてお詫び、ご協力戴いた事に深く感謝します。

近号は情報過多で、ニュースの取捨選択に悩むといううれしい悲鳴を上げつつ最近はやむをえず、増ページ 41 号から 12p～14p で対応しています。

そして今後はバトタッチする次代の編集者に是非創立 70 周年時には『埼玉岳連報』70 号以上を出して飾ってほしいと念じます。継続はとても大事です。

平成 27 年 1 月第 5 代編集担当 岩井田正昭

10 月～1 月 県内選手リザルト

東部地区新人大会及びコバトン中高生競技大会

2014/9/21 加須

[中学生の部]

男子 1 位 本間 大晴, 2 位 中村 颯人, 3 位 三木 流砂

女子 1 位 松井 結, 2 位 江上 理琴, 3 位 小林 由奈,
4 位 須見 真絢

[高校生の部]

男子 1 位 中村 元, 2 位 神田 慎, 3 位 白石裕次郎,

4 位 平岡 寛仁, 5 位 長谷川大晴, 6 位 野村 拓生

女子 1 位 安部 文菜, 2 位 佐藤 綾香, 3 位 山崎 真緒

第 69 回国民体育大会『長崎がんばらん国体』

2014/10/17-19 長崎/大村

天皇杯男女総合 第 7 位

少年男子

選手: 波田 悠貴, 渡邊 海人 監督: 内海 信

リト 予選 8 位・決勝 3 位

ボルダリング 予選 4 位・決勝 2 位

成年男子

選手: 是永敬一郎, 鈴木 友希 監督: 小茂田利孝

リト 予選 2 位・決勝 6 位

ボルダリング 予選 11 位 **※詳細は 6P 参照**

IFSC Climbing Worldcup

2014/10/26 千葉・印西

男子: 9 位 是永敬一郎, 12 位 波田 悠貴

女子: 10 位 尾上 彩 決勝進出ならず

第 1 回関東小中学生選抜クライミング選手権大会

2014/11/2 千葉・幕張総合

[小学男子] 10 位 鶴隼斗, 24 位 佐藤純, 28 位 別所綱

[小学女子] 10 位 川端 美央, 23 位 勝見 文音

[中学男子] 8 位 中村 颯人, 26 位 三木 流砂

[中学女子] 7 位 曾我 綾乃, 17 位 松井 結,
19 位 須見 真絢, 20 位 江上 理琴, 21 位 小林 由奈

第 27 回県民総合体育大会 コバトンクライミングカップ

2014/11/30 加須

※詳細は 6P 参照

第 5 回全国高等学校選抜クライミング選手権大会

2014/12/23-24 加須

男子 1 位 波田悠貴, 4 位 大高伽耶, 6 位 渡邊海人,

11 位 加藤悠生, 30 位 中村元, 41 位 神田慎

女子 1 位 坂井絢音, 68 位 安部文菜, 75 位 佐藤綾香

男子 (学校別) 1 位 久喜工業高校

女子 (学校別) 17 位 上尾南高校

※詳細は 7P 参照

専門委員会・計画 [27年1月～3月]

指導委員会

1/17-18・平成 26 年度指導員養成講習会 那須

2/14-15・日山協 主任検定員養成講習会 大山

競技委員会

1/24-25・競技部ブロック研修会 加須

2/21-22・ボルダリングジャパンカップ 深谷クライミングビル

選手強化委員会

1/18-2/1・フライング計画 川越 RC

遭難対策委員会

1/23-25・日山協 山岳レスキュー講習会 谷川岳

海外登山委員会

2/3・例会 大宮

2/頃・平出和也氏後援 (調整中)

3/7-8・日山協 海外登山技術研究会 刈ヶ谷

自然保護委員会

2/21-22・ファーストビバーク及び耐寒訓練計画 三峯

3/25-26・旧三峯分校「岳人の家」閉所式 三峯

ジュニア委員会

2/14・ジュニア・普及情報交換会 刈ヶ谷

広報委員会

1/14・編集委員会

1/末・【埼玉岳連報(記念号)50 号】発行

企画委員会

60 周年記念 テーマベース作成

個人会員委

その他

1/17・日山協 新春懇談会 東京

グランドホテル

1/24・都岳連 2015新春の集い 東京グランドホテル



ファーストビバーク及び耐寒訓練

主 催: 埼玉県山岳連盟、主 管: 自然保護委員会

後 援: 遭難対策委員会

期 日: 2015 年 2 月 21 日(土)-22 日(日)

場 所: 旧三峯分校跡「岳人の家」

参加費: 5,000 円 講習会費他

装 備: ウェット、天幕、寝袋、マット、ヘッドランプ、防寒具、着替

え、手袋、替え靴、帽子、シュリンク=3 本、
テープスリング 1, 5m・1, 2m=各 1 本、細引=20m、サイル=1 本、カ
ナベナ=3 個、アイゼン(6 本爪以上)、
ストック、テルモス、洗面具、他必要なもの、
講 師: 県岳連・遭対委員会委員長 瀬藤武、他
※詳細については直接、岩崎自然保護委員長に
連絡下さい。 048-442-0833 090-1604-6848

ホルダリングジャパンカップ 日本代表選考会

競技日程:2015 年 2 月 21 日(土)-22(日)

名 称:キョーリン製菓グループ presents

ホルダリングジャパンカップ 2015

主 催:公益社団法人 日本山岳協会

主 管:埼玉県山岳連盟・

協 力:深谷市山岳連盟

特別協賛:キョーリン製菓ホールディングス株式会社

協 賛:マートスポーツグループジャパン、好日山荘

期 日:平成 27 年 2 月 21 日(土)-2 月 22 日(日)

会 場:深谷クライミングウイレッジ(JR 高崎線 龍原駅)

〒366-0051 埼玉県深谷市上柴町 3-13-6

TEL 048-578-6625

第 5 回日本山岳遺産サミット

日 時:2015 年 2 月 28 日(土)

会 場:インプレスグループ セミナールーム

千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビル 23F

内 容: I 部 2014 年度認定地・認定団体発表

II 部 基調講演「地方の自然、魅力の伝え方」

III 部 過去の認定団体・関係者のディスカッション

申込締切:2 月 20 日 定員 80 名下記 HP より直接

<http://sangakuisan.yamakeico.jp/>

海外登山技術研究会

日 時:2015 年 3 月 7 日-3 月 8 日

会 場:国立オリンピック記念青少年総合センター 513 号室

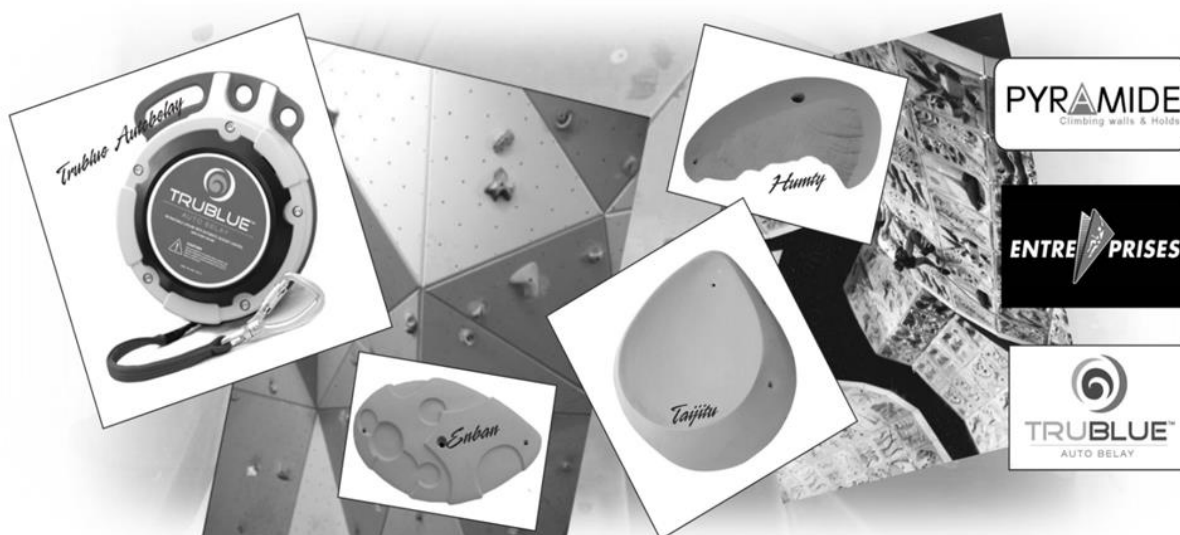
内 容:3/7 海外登山報告 2014 谷口けい氏 他

3/8 特集 I 特別講演」中村 保氏 他

参加費:当日参加:2,000 円/宿泊参加:12,000 円

主 催:(公社)日本山岳協会問合せ先 03-3481-2396

編集後書 昨年末の高校生 C 大会、1 月の遭難事故
捜索、2 月の新春懇談会が終わり 4 月評議員総会に
向けて走り始めた。 悠々坦々と m.i



取り扱い製品

- ・クライミングウォール
ピラミッド、アントレプリーズ、当社オリジナル
- ・ホールド
アントレプリーズ、草ホールド、Wall Street
- ・オートブレーシシステム
TRU BLUE

クライミングウォールの設計、施工と

ホールドなどの関連製品の販売をおこなう会社です。

ピラミッドジャパン株式会社

〒357-0062 埼玉県飯能市永田387-5

Tel:042-980-5650 Fax:042-971-6780

URL:<http://pyramide-japan.com/>

Mail: pj-info@pyramide-japan.com

ホールドのご用命は<http://hold-market.com/>へ

革にこだわる

長期縦走3シーズンの決定版!

メーカーに別注、約3年ぶりに **限定モデル** として復刻。

MOUNTAIN



復刻
モデル



MADE IN ITALY



本革



バルディフィメ GTX

WT: 約625g (25cm, 1/2足) サイズ: 23.0cm~27.5cm



ニッピン特価

33,800円



上り、下りで差がつく
疲労軽減ソール!

特許ソール

形状の異なる
ソールパターンが
クッション性とグリップ力を
向上させました。



上り・下りクリップカUP
ソール接地部分を斜めにカット。
強力なグリップ力を実現。



クッション効果により
衝撃吸収カUP

疲労軽減
20%
履いて
実感!

特許ソール + GORE-TEX

完全
防水



履き込む
程に

タイフーン GTX

永く付き合えるレザーブーツ



重さ: 約600g (1/2)
サイズ: 23cm~27cm

25,800円

トランゴハイク GTX

名前はハイクでも性能はトレッキング仕様



重さ: 約525g (1/2)
サイズ: 23.5cm~28cm

17,700円

サンドストーン GTX

悪路でも丈夫で堅牢な
ローカットモデル



重さ: 約425g (1/2)
サイズ: 23cm~28.5cm

14,800円

山の“3種の神器”ザック・山靴・雨具は安心の専門店で!!

登山用品や
お得な情報満載!

WEB SHOPもご利用ください

はじめての山登り
応援します!

割引クーポン、おトクな情報をお届けします。



ニッピン 検索
http://www.nippin.co.jp

パソコンから



携帯から

ニッピンは、

秋葉原に登山用品専門の
お店を構え、
おかげさまで62年。

秋葉原 OUTDOOR MIND
ニッピン

本店 〒101-0021
東京都千代田区外神田3-11-11

神田小川町店 〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-2

03(3253)1431

03(3233)4121

〈営業時間〉
平日・土曜 11:00~19:30
日曜・祝日 11:00~19:00



ALP K2®

ここ数年、登山ブームが続いております。
市民ハイキングやバスツアー登山も盛況のようです。
このところ遭難事故も多発しております。
グループでの山行のためにも、あなた自身のためにも、
今、動脈血の酸素量がどの位なのか、脈拍数はどの位なのか、
正確な機械で測定してみてください。
日本山岳協会創立50周年記念の際に特別提供した
パルスオキシメーターを埼玉県山岳連盟支援のために、
更に特価でご提供致します。



季節の変わり目です。親しい方にデジタル血圧計を差し上げたいかがでしょう。
超特価でご提供できます。お誕生日、結婚式、お歳暮、クリスマスプレゼントなど、
用途に応じて対応させていただきます。
もちろん山行に持参できる小型タイプもございます。



登山行動中や野外活動中に本格的な聴診器はいかがでしょう。
樹の幹に聴診器を当ててみると、色々な音が聴こえてきます。
葉の擦れる音、遠くの小川の音。虫の声、鳥の声。
樹はまるでパラボラアンテナのように色々な音を集めます。
ご家族のペットの心音を聴いてみるのもいいでしょう。
人間とは違った鼓動に新しい発見があるでしょう。
ぜひトライしてみてください。

埼玉県山岳連盟の活動を応援している田中産業株式会社は1969年の創立。
世界80数カ国に製品を輸出しております。



登山者必携
パルスオキシメーター

- **パルスオキシメーター**
- **歩数計**
- **デジタル血圧計**
- **聴診器**
- **その他医療器全般**

ALP K2® 田中産業株式会社

本社

113-0033 東京都文京区本郷3-16-3
TEL 03-3814-7181 FAX 03-3814-7177
Eメール alpk2@joy.hi-ho.ne.jp

弊社はISO13485を
取得致しております